

# 裏カー・マガ通信

〒141-8201  
東京都品川区上大崎  
3-1-1 目黒セントラル  
スクエア  
phone:03-5745-7824  
カー・マガジン  
編集部内

本誌定期購読サービスをご利用いただいている読者の皆さま限定でお届けしているのが『裏カー・マガ通信』。気楽に読み飛ばすのが吉。

■昔の名前とイメージを、今に伝える？

## DS 今昔物語



発表会でスピーチを行うローラン・ピック駐日フランス大使(上)と、ブジョー・シトロエン・ジャポンのクリストフ・プレヴォ社長。(下)



東京都港区南青山6-3-16 A-FLAG 美術館通りにオープンしたフラッグシップストア、DS STORE 東京。当日のショールーム内にはDS7クロスバックが展示された。

DSと聞いて我々世代が真っ先に思い浮かべるのは、やはり1955年にデビューしたシトロエンDSでしょう。その後1970年代まで生産され続けたDS/ID一族でしたが、トラクシオンアヴァンの後継としてデビューしたこのDSと2CV、

すなわち"ものすごい前衛"と"究極のベーシック"、基本的にはこの極端な2台が、当時のシトロエン乗用車の全てでしたから、その印象はなおさら強烈でした。

だから近年になって「みなさん、これからの『DS』はシトロエンの

作ったクルマの車名じゃなくて、トヨタに対するレクサスみたいな、高級自動車ブランドの名前ですよ〜」と、いわれても、始めのうちはまいちピンとこなかった人も多かったのではないのでしょうか。実は私もそうでした。

しかし、これからはそんな認識も変わっていく事でしょう。我が国に於いても、続々と新規の"DSディーラー"がオープンするので

すから。

今回ご紹介するのは、さる12月3日、東京は南青山にオープンしたフラッグシップストア『DS STORE 東京』のオープニングイベントの様。会場にはローラン・ピック駐日フランス大使やブジョー・シトロエン・ジャポンのクリストフ・プレヴォ社長ら重鎮も訪れ、『DS Automobiles』日本旗艦店の門出を祝ったのです。

とはいえ、個人的にはDSといえばやはりこちらのイメージが強烈。右は2016年の『オートモビルカウンシル』の会場で見かけたDSのアンリシャブロンと、手前はDSの子供用ベダルカー。欧州では自社のクルマをベダルカーにする例も多く見られますね。



左は2018年の『ホビーフォーラム』会場で見かけたDSの子供用ベダルカーの、1/24ガレージキット。子供用乗用玩具の、さらにミニチュアモデル!!

## 話題の新刊のお知らせ!



**SCUDERIA No.123**  
日本唯一のフェラーリ専門誌。最新号 No.124は、『クラシック・フェラーリの楽しみ方』と題し、250GT ルッツを筆頭に特集。  
●価格 2597円+税



**ジャパニーズ・リバイバル**  
昭和に生まれ、平成を駆け抜けた懐かしの国産旧車たち。今なお現役の名車たちを、現在の路上で味わう。資料真なども充実。  
●価格 1574円+税



**遥かなる零戦**  
零戦22型 "A1-112" の発掘からレストア、さらに日本に里帰り飛行を果たすまでの貴重な全記録を、書籍と2枚のDVDに収録。  
●価格 4150円+税

●お求めの際はお近くの書店・コンビニ、またはカスタマーセンターをご利用下さい。

**Phone:04-2944-4071**